

第12期千葉県生涯学習審議会第5回会議及び平成30年度第2回千葉県社会教育委員会議  
(平成30年7月27日開催)での主な意見

資料の収集と保管について

- ・九十九里いわし博物館事故については、収蔵庫の狭隘化だけではなく、資料の保全に対する体制を整える中核としての機能まで加筆してはどうか。(17頁15行に加筆)
- ・バックヤードの収蔵庫には、たくさんの貴重な資料が保管されていることを知った。それらの活用、情報発信をしっかりと行っていってもらいたい。(17頁9-12行に加筆)
- ・収蔵資料を活用した市町村(博物館・美術館)への支援を望む。(19頁5-8行で読み込み)
- ・博物館活動を理解する上でバックヤード見学は有効であるが、害虫の防除等の関係で見学者の入室が困難であるなら、映像で紹介することを考えてはどうか。(18頁1-5行で読み込み)
- ・MLA連携については、叫ばれてはいるが、良い事例が無い。「千葉モデル」となるような見通しが示せるとよい。(17頁18-24行で読み込み)

調査・研究について

- ・多くの人に来てもらえる博物館を考えた場合、人材育成については、研究職員だけでは無く、企画や集客等を担う人材についても検討するべきではないか。(17頁27-29行で読み込み)
- ・人材育成については、職員だけでなく、県民育成も考えるべきではないか。(20頁19-20行に加筆)

展示について

- ・フィールドミュージアムについては、多くの人に伝わるよう、上手な情報発信を望む。また、少額でも参加費を徴収することを推奨する。それにより、参加者意識が高まり、事業の効果も向上する。(19頁11-13行で読み込み)

教育普及について

- ・若手教員の資質の向上につながるような教員研修の充実を望む。(20頁1-5行で読み込み)
- ・高齢化社会への対応では、「ボランティア」の文言も入れる事を望む。(20頁10-11行に加筆)
- ・図書館との連携については、今後とも推進してもらいたい。(20頁14-15行で読み込み)

## 【参考1】

### 第12期千葉県生涯学習審議会第4回会議及び平成30年度第1回千葉県社会教育委員会議（平成30年5月23日開催）での主な意見

#### 博物館をとりまく社会状況の変化

- ・関連法の改正には、経済的基盤の重要性など、博物館にとっても重要な意見が述べられている2015年のユネスコ(UNESCO=国際連合教育科学文化機関)の勧告も加筆すべき。

#### 資料の収集と保管について

- ・博物館資料の救済では、行政主導の先駆事例でもあることから、九十九里イワシ博物館事故への対応を加筆してはどうか。
- ・収蔵庫の狭隘化は、博物館資料の救済を行う上でも支障をきたすことを述べてはどうか。
- ・中長期的な収集計画の立案に関する記述を加えてもらいたい。

#### 調査・研究について

- ・将来の人材不足、定員削減に対応できるよう、専門職員の計画的、長期的な育成はしっかりと書いておいた方がよい。
- ・デジタル化、情報の発信においては、何を行うかだけでなく、それによって何を目指し、どうなるかまで、具体的に書き込んでもらいたい。
- ・博物館情報の受信者を介して、更に情報が拡散するような、情報発信機器、ツールの導入とともに、有益な、また魅力的な情報を発信してもらいたい。

#### 展示について

- ・展示会入場者数は1日当たりで示すと、展示会間での比較が容易になる。(p.15に加筆)
- ・展示の改修は、財政状況に左右されずに実施できるよう、ハード、ソフトの両面において、もう少し強調した記述にするべき。
- ・フィールドミュージアムの利用者については、将来的な事業展開を考える上で、人数だけでは無く、住地や年齢層、等の分析も加えてはどうか。

#### 教育普及について

- ・来たるべき高齢化社会への対応についても触れてもらいたい。

#### 県立博物館の役割等について

- ・これからの県立博物館は、市町村立博物館との差別化を図り、その上で役割を明確にし、行うべき事業をしっかりと行っていくべき。
- ・収蔵資料情報のデジタル化など、市町村立博物館では予算、人材的に困難なことを、県立博物館が指導、支援する体制を整えてもらいたい。
- ・博物館が利用しにくい地域への援助についても検討してもらいたい。
- ・幅広い利用者ニーズに対応できるよう、連携は、資料の収集と保管(MLA)に限らず、調査・研究等、その他の分野においても進めてもらいたい。

## 【参考2】

第12期千葉県生涯学習審議会第3回会議及び平成29年度第5回千葉県社会教育委員会議  
(平成30年3月23日開催)での主な意見

### 県立博物館の役割等について

- ・博物館の教育機能、特に専門職員の能力が十分発揮できるような配慮が必要。その上で、博物館が地域振興や観光振興に貢献できるのではないか。
- ・各博物館・美術館が、バックヤードにたくさんの資料を保管していること、それぞれ役割と専門性があることを再確認し、そうした役割をおろそかにしない在り方の検討をすべきではないか。
- ・博物館機能の集約化の検討では、市町村が行ってきた資料調査の成果を活かせる連携体制を検討すべきではないか。

### MLA連携について

- ・MLA連携では、博物館だけでなく大学図書館、自治体編さん室等に保管されている県内の地域資料、歴史・文化資料について、県が把握をし、一括管理して利用できる、という考え方で検討を進めてほしい。
- ・図書館、文書館、博物館では資料の扱い方が異なるので、資料取扱いに万全を期すため連携強化に期待する。

### 歴史系展示について

- ・歴史系展示の強化では、近代から現代資料について、どの範囲を扱い、どのように展示するかが課題である。

### 人材育成について

- ・指定管理者制度導入にあたっては、学芸スタッフの後継職員の育成できるような仕組みを検討すべきである。
- ・博物館資料、文化財の修復ができる専門家の養成が必要である。

第12期千葉県生涯学習審議会第2回会議及び平成29年度第4回千葉県社会教育委員会議  
(平成29年12月13日開催)での主な意見

県立博物館の役割

- ・ 県の良さ・魅力を伝える役割がある。
- ・ 市町村立博物館と地元学校との連携が進んできたが、県立博物館は更なる充実につながる取組を支援すべき。
- ・ これからの博物館がどのような使命を持つべきか十分検討すべき。

資料の収集・保管

- ・ 資料の収集や保管は重要である。

調査・研究

- ・ 調査研究は重要である。

展 示

- ・ 県の良さを知ってもらう工夫が必要である。
- ・ 子どもたちに響く見せ方、技術導入を検討すべき。
- ・ 時事的話題や時代ニーズに即応した事業展開、営業努力が必要。
- ・ 再訪したいと思わせる魅力ある展示を検討すべき。

教育普及

- ・ 学校教育、生涯学習と絡めた展示・教育普及の充実。
- ・ 県の良さを知ってもらう工夫が必要である。
- ・ 市町村施設との連携が必要である。
- ・ 県立博物館が連携し学校教育支援を充実すべき。
- ・ 県立博物館と市町村市立博物館とが連携した情報提供・発信をすべき。

施設・設備

- ・ 実物を見て子どもが感動する丁寧な整備が必要。
- ・ 子どもたちに響く見せ方、技術導入を検討すべき。

その他

- ・ リピーターが期待できるなどの視点で、指定管理者制度を導入する施設の仕分が必要ではないか。

